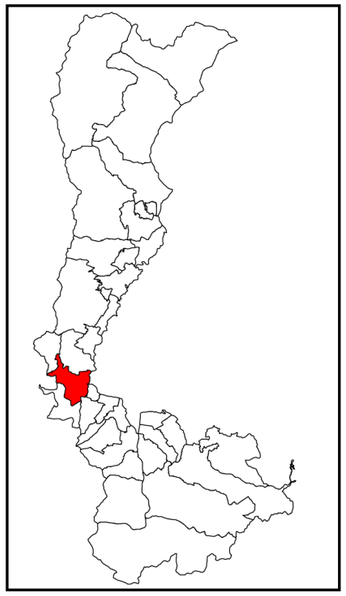
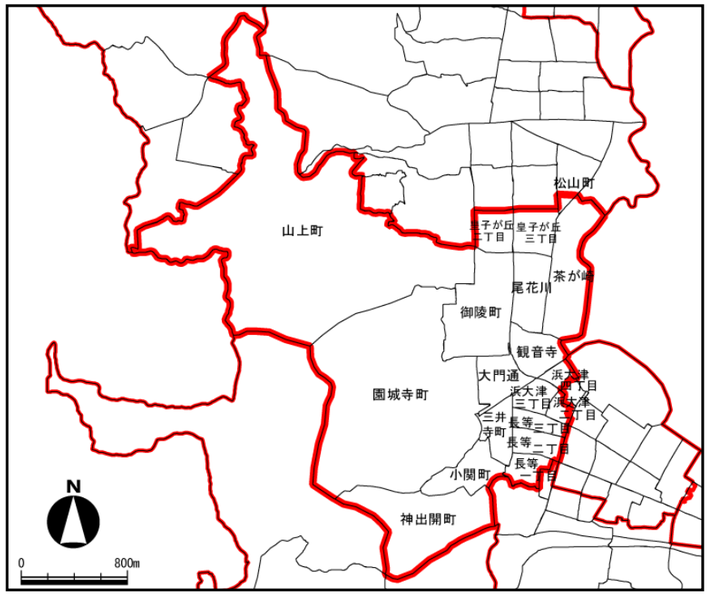
◆ 長等学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

皇子が丘二丁目、皇子が丘三丁目、松山町の一部、大門通、園城寺町、山上町、観音寺、尾花川、茶が崎、御陵町、浜大津二丁目の一部、浜大津三丁目、浜大津四丁目の一部、長等一丁目、長等二丁目、長等三丁目、小関町、三井寺町、神出開町

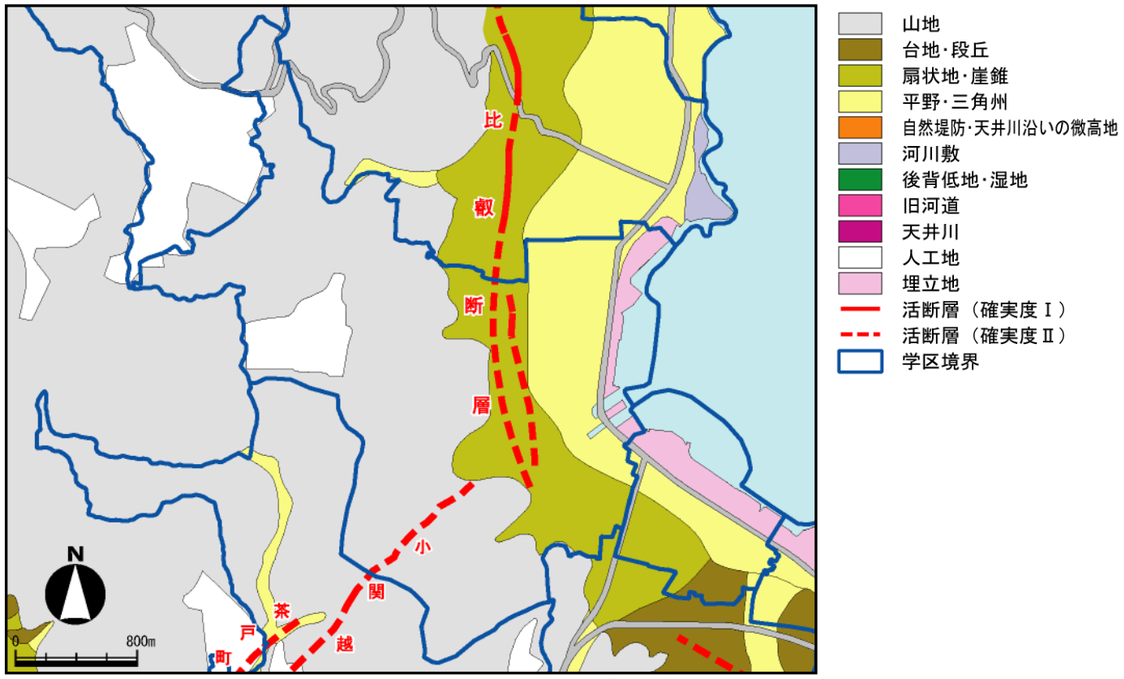
（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

＜学区の特徴＞

大津市のほぼ中央に位置する長等学区は大津市役所など行政の主要施設が存在する。長等山の山麓から湖岸に広がり、長等山を通る東海道自然歩道や自然観察の森一帯は、市街地に隣接しながら四季折々の自然を楽しめる身近な森として親しまれている。

また、このあたりは平安時代以降に建立された園城寺（三井寺）とともに栄え、今も多くの参拝者が訪れるなど、歴史深い観光地としての特性がある。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 長等学区の地形は東部の低地と西部の山地からなる。低地は低平な氾濫原性低地とやや傾斜を持った扇状地性低地に細分される。
- 茶が崎、尾花川、観音寺、浜大津付近は氾濫原となり、御陵町、大門通、三井寺町、長等付近が扇状地となる。扇状地は坂本学区より石山学区まで連続的に分布し複合扇状地となっている。
- 湖岸には埋立地が造成されているほか、扇状地や山地にも人工改変が進んでいる。山地部の大規模な人工地にはゴルフ場があり、湖岸部には埋立地が広がっている。

＜地質の特徴＞

- 40 万年前頃から地殻変動の活発化に伴う比良、比叡の両山地の上昇により、多量の砂礫が供給されたことや、流域面積の小さい河川が多数分布することなどに起因する。低地と山地の境界部には比叡断層が南北に通過する。
- 扇状地の幅は地質の違いを反映し、背後の山地が花崗岩である北部の方が、中古生層の山地を背後に持つ南部よりも幅が広い。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
皇子が丘二丁目	51.1	95.1	26.9	60.0
皇子が丘三丁目	111.1	95.8	40.8	64.2
松山町	44.3	87.8	47.1	10.5
大門通	78.5	69.9	78.6	53.5
園城寺町	－	－	50.0	50.0
山上町	49.9	98.1	71.1	57.5
観音寺	94.1	70.7	82.5	65.8
尾花川	66.4	71.1	79.7	75.2
茶が崎	－	－	－	－
御陵町	45.0	97.9	52.2	57.1
浜大津二丁目	109.7	80.4	56.9	70.3
浜大津三丁目	73.7	68.1	70.7	64.1
浜大津四丁目	31.1	94.1	52.9	59.3
長等一丁目	89.5	87.2	75.0	63.7
長等二丁目	114.4	65.4	78.0	80.8
長等三丁目	100.5	61.0	81.1	78.7
小関町	76.2	86.4	77.2	66.2
三井寺町	76.6	57.7	82.9	62.3
神出開町	－	－	83.3	53.3
学区平均	71.3	94.5	71.7	65.9
出典	1,2	1,2	2	2

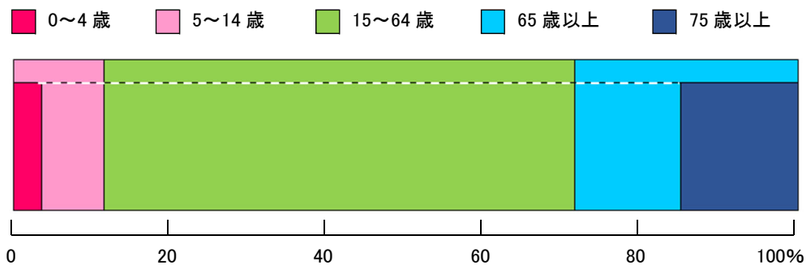
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注 1）市街化区域を対象とした。
（注 2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は 71.3 戸/ha で市平均（全学区の平均）の 59.3 戸/ha より高い。
- 不燃領域率の学区平均は 94.5%で市平均の 93.9%より高い。
- 木造率は、神出開町が 83.3%で最も高く、皇子が丘二丁目が 26.9%で最も低い。学区平均は 71.7%で市平均 72.7%より低い。
- 旧耐震木造建物割合は、長等二丁目が 80.8%で最も高く、松山町が 10.5%で最も低い。学区平均は 65.9%と市平均 40.3%を上回り、市内で４番目に高い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	12,399	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	436	人	学区人口に対する割合	3.5	1
年齢別（5～14 歳）	978	人	学区人口に対する割合	7.9	1
年齢別（15～64 歳）	7,442	人	学区人口に対する割合	60.0	1
年齢別（65 歳以上）	3,543	人	学区人口に対する割合	28.6	1
年齢別（75 歳以上）	1,870	人	学区人口に対する割合	15.1	1
世帯数	6,116	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.0	人/世帯		－	2
要介護認定者	782	人	学区人口に対する割合	6.3	3
身体障害者（要配慮者）	177	人	学区人口に対する割合	1.4	4
知的障害者（要配慮者）	20	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	145	人	学区人口に対する割合	1.2	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 学区人口のほとんどが集中する東側の低地～扇状地の地域は人口集中地区（ＤＩＤ地区）である。
- 高齢者（65 歳以上）は 3543 人、乳幼児（0～4 歳）は 436 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 28.6%、3.5%である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より低い。
- 要介護認定者は 782 人（6.3%）、身体障害者（要配慮者）は 177 人（1.4%）、知的障害者（要配慮者）は 20 人（0.2%）である。
- 外国人居住者は 145 人（1.2%）である。

◆ 長等学区

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	25 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	11 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	28 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	43 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	6 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	3 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	185,164 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	153,639 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	119,374 ㎡	6
（2.0m～）	16,823 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	1 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	0 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて１つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 学区西部地域の山地部には防災上注意の必要な危険箇所の指定部は少ないが、東部丘陵～低地部は市街化しており人口が集中すること、あわせて山地との境界部に比叡断層が南北に通過し、その周辺が土石流危険渓流に指定されていることが特徴である。
- 豪雨などの場合には、この土石流危険渓流及び急傾斜地崩壊危険場所部分に警戒が必要であるが、市街地部の内水氾濫にも注意が必要である。
- 湖岸沿いの市街地部には、琵琶湖湖面の上昇による浸水想定区域が広がっており、琵琶湖からの浸水にも注意が必要である。
- 地震時には、山地部で崩壊が生じ、２次的に災害が発生する可能性がある。また、地震発生について、比叡断層が直接活動した場合は断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。
- 湖岸域では、液状化の可能性もある。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	長等小学校グラウンド	○	○	○		大門通 5-1
	皇子山中学校グラウンド	○		○		尾花川 12-1
	長等幼稚園グラウンド	○	○	○		三井寺町 10-30
	滋賀県立大津商業高校グラウンド		○	○		御陵町 2-1
	尾花川公園	○		○		尾花川 1
	皇子山総合運動公園	○		○	○	御陵町 4
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	長等市民センター	○	○	○		大門通 16-40
	長等小学校体育館	○	○	○		大門通 5-1
	皇子山中学校体育館	○		○		尾花川 12-1
	長等幼稚園	○	○	○		三井寺町 10-30
	滋賀県立大津商業高校体育館	○	○	○		御陵町 2-1
	市民文化会館	○	○	○		御陵町 2-3
	県立スポーツ会館	○	○	○		御陵町 4-1
指定避難所	皇子山中学校武道場	―				尾花川 12-1

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234，528-2616**
長等市民センター	大門通 16-40	525-0854

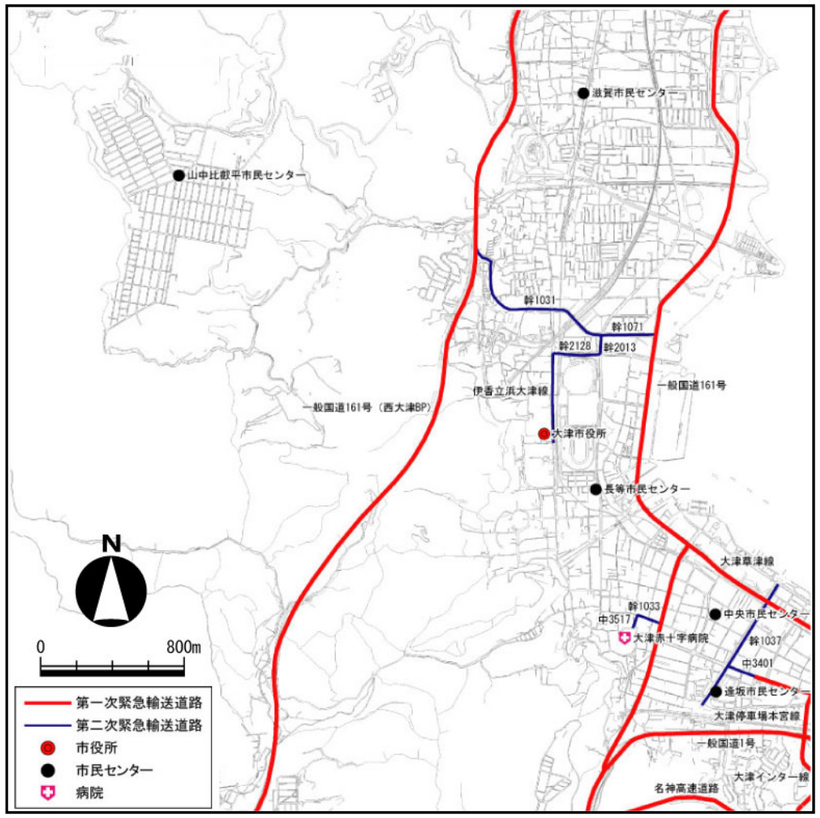
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津警察署	**打出浜 12-7**	**522-1234**
皇子山交番	皇子が丘三丁目 3-19	525-1417

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
中消防署	**御陵町 3-1**	**525-0119**
長等分団	大門通 16-39	525-3425

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	3,243	11,024	808	832	1,224	17	27	18	179	205	163	9	10	8
ケース２	3,243	11,024	943	808	1,348	22	35	22	164	188	152	8	9	8
ケース３	3,243	11,024	600	843	1,021	14	22	16	192	234	176	11	12	10

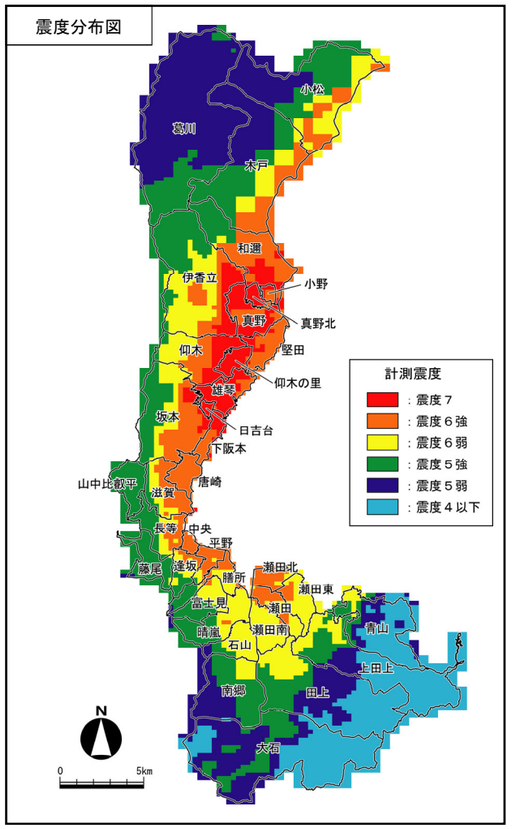
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	1	2	2	1,520
ケース２	1	2	3	1,609
ケース３	1	1	2	1,362

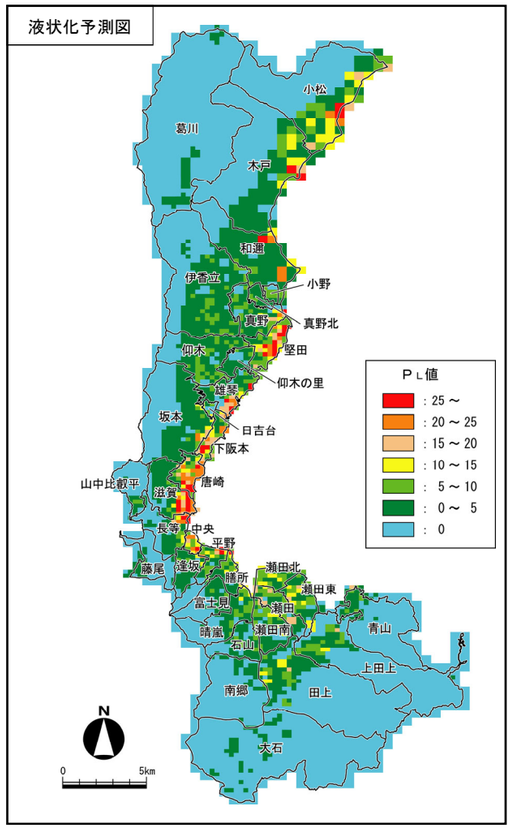
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

（P L≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
P L≧20 激しい液状化）

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）